日々の暮らしに

香川芳子
女子栄養大学学長

小さな生き物が自然界の土台作りを担っています

ノーベル医学生理学賞を受賞された大村智さんは、熱帯地方の感染症オンコセルカ症（河川盲目症）の特効薬イベルメクチンを開発し、熱帯地方の何億人もの人々を救う偉業を成し遂げました。この有用な化学物質の元は静岡県川奈のゴルフ場の土壌から発見した放線菌から抽出したとのことです。私たちの目に触れない小さな生き物が自然界の営み――土壌や空気をきれいにしたり、動植物を育てたりと環境保全に大きな役割を担っており、その恩恵によって私たちは生かされていることに気づかされます。大村さんは自然界の土台作りを担う無数の微生物に着目して有用性を見いだし、感染症の特効薬を開発したのです。

私は小さいときから動物の物語が大好きで、小学校の学級文庫にある本をくり返し読んでいました。好奇心旺盛で、庭にしゃがみ込んでは小さな虫が巣穴を作る様子や餌を運ぶ様子を、何時間も飽きずに見ていたものです。すると虫はどうやって暮らしているの？という子どもなりの素朴な疑問もとけてきました。そんな時間から彼らの生活をおびやかさない、自然界と折り合いをつけて生きていく方法を学んだような気がします。

1　かがわよしこ＝医学博士。四群点数法の開発、計量カップ・スプーンの普及に携わり、さまざまな形で栄養教育に貢献。　え／目黒雅也